鳥取大学

産学・地域連携推進たより

- 研究推進に関する事業報告
- 地域貢献・生涯学習に関する事業報告
- 知的財産管理運用に関する事業

2015
冬号

①研究推進に関する事業報告

1. 鳥取大学東京ビジネス交流会【10 月 16 日（金）　開催：CIC 東京】

今回のビジネス交流会は、農学部と地域学部の同窓会を中心として、関東地区の企業様に研究シーズをご紹介し、個別面談等によりマッチングを図るべく開催を致しました。第１部は、鳥取県東京本部の前田本部長より鳥取県の最新動向、田村地域環境学科長から地域学部の最新動向、渡邉副学部長より農学部の最新動向のプレゼンテーションがあり、これに引き続く第２部では、農学部の中桐 昭教授、上中弘典准教授、遠藤常嘉准教授、岩崎 崇助教、地域学部の田村純一教授、永松 大教授、計６件の研究シーズが発表され、参加者が熱心に聴講されていました。参加者は全体で５５名、第３部の懇親会は３６名が参加され学外参加者全員が自己紹介を行うなど、和やかな雰囲気で次に繋がる気配を感じられるビジネス交流会となりました。

2. ビジネスマッチング商談・展示会 2015in 出雲【10 月 29 日（木）　開催：出雲ドーム】

１０月２９日（木）に出雲ドームで「ビジネスマッチング商談・展示会 2015in 出雲」が開催されました。

これは中海・宍道湖・大山圏域ものづくり連携事業として、圏域のものづくりを中心とした産業の活性化を図るため、展示会・商談会を広域組織で開催して圏域内外の企業の連携や交流会を促進し、取引拡大、共同開発、業務提携に繋げることを目的としています。

当日は本学の展示ブースを構えて、ご来場者に大学概要や産学・地域連携推進機構活動の紹介と、実物サンプルを展示したマリンナノファイバーとナシポリフェノールの研究成果など研究シーズ１０件の紹介と意見交換を行い、中には具体的な利用検討に繋がるご要望を頂くなど研究内容に興味を持って頂くことができました。

3. 鳥取大学大阪ビジネス交流会【11 月 13 日（金）　開催：鳥取県関西本部】

今回のビジネス交流会は関西地区の企業に対し鳥取大学の研究シーズを発表する事で産学連携を推進する事を目的とするものです。本年は関西本部伊藤参事監より「鳥取県の最新動向」、地域学部田村学科長より「地域学部の最新動向」、農学部渡邉副学部長より「農学部の最新動向」の話があり、また研究シーズとして地域学部から田村純一教授、永松 大教授の２件、農学部より児玉基一朗教授、大崎久美子講師、東 和生助教、岩崎 崇助教の４件で計６件の発表を行いました。また今回は両学部の同窓生にも案内し、研究シーズ発表会では６７名の参加、懇親会には４４名の参加がありました。発表会、懇親会を通じ技術相談、意見交換、議論も活発に行われ、非常に活気ある交流会となりました。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. キャリア科目「地域就業論」開講　【10 月 1 日（木）～　開催：鳥取大学共通教育棟Ｄ21 講義室】

本学では平成２７年度後期授業から、振興協力会会員企業を中心とした県内産業界の講師陣によるリレー講義「地域就業論」を新たに開設しました。本講座は地元産業界への理解を促し、業界の魅力を学生に直接発信する取組みで、学生の県内就職に繋げることを目的としています。

登壇いただいた講師陣からは、会社を取り巻く業界の紹介や、仕事のやりがい・面白さ、職に就くということへの考え方など、非常に幅広い内容でご講演いただき、今後就職活動に取り組む学生に向けアドバイスとともにエールを送っていただきました。

2.鳥取県西部地震15年とっとり防災フェスタ2015　【10月3日（土）　開催：イオンモール日吉津店】

昨年に引き続き鳥取県主催のとっとり防災フェスタが日吉津村で開催されました。これは県民の防災意識を高めようと鳥取県が毎年おこなっている防災事業の１つで、今年度は鳥取県西部地震から１５年目の節目の年ということもあり、多くの機関の支援のもと実施されました。保育園児による踊りから始まり、防災訓練、災害疑似体験、消防車両等展示、スタンプラリーと盛りだくさんの内容で催され、会場には約１万人が訪れました。

鳥取大学からはとっとり防災・危機管理研究会がブースを出展し、津波や地震、土砂災害の発生装置模型などの展示に加え、防災クイズなどを実施しました。ブースでは工学部の教員と学生が来場者にわかりやすく説明をおこない、ブースを訪れた子どもたちや家族連れに、楽しく防災について学んでいただきました。

3.共通教育科目「とっとりの海の幸を学ぶ」開講

【10月6日（火）　開催：鳥取大学鳥取キャンパスほか】

１０月から後期授業が始まり､「鳥取の海の幸を学ぶ」が１０月６日（火）に開講しました。この科目は、鳥取県の重要な産業である水産業について体験しながら学ぶことにより、地域の特色ある自然や産業についての教養を身につけるとともに、キャリア形成や社会での課題解決能力涵養に役立てることを目的として昨年度開設されたものです。鳥取県農林水産部水産振興局、水産試験場、栽培漁業センター、境港水産事務所や（地独）鳥取県産業技術センター食品開発研究所の協力により、水産業の現場訪問による視察・体験学習を組み入れました。

4.TORIDAI EDGE cafe,talk

【10月7日（水）、10月28日（水）開催：鳥取大学地域学部サテライトキャンパス SAKAE401】

「TORIDAI EDGE」は参加者の対話を重視したワークショップ型の公開講座として年間数回不定期に開催しているものです。１０月には「こどもたちは『出ていく』ために学ぶのか」というテーマで開催しました。

まず１０月８日に地域学部の田中大介准教授をゲストに招いて専門家の解説を聞く「Talk」を開催し、１０月２８日にはTalkの内容や参加者の経験をもとに対話する「Café」を開催しました。延べ４０名程度の参加者があり、活発な話し合いが行われました。本講座は文部科学省による「地（知）の拠点整備事業」（大学COC事業）の一環として実施されており、当日の様子は鳥取大学COC推進室のウェブサイト（http://www.coc.tottori-u.ac.jp/）でご覧いただけます。

5.サイエンス・アカデミーin米子「あなたの知らない、きのこの世界」

【10月10日（土）、10月24日（土）、11月14日（土）、11月28日（土）　開催：米子市立図書館多目的研修室ほか】

本学では、本学の教員が行っている研究や、地域住民の皆さんが日頃疑問に思っていることなど、自然科学、技術、環境、地域社会に関する今日的課題について紹介する「サイエンス・アカデミー」を毎月第2・第4土曜日に開催しています。普段は鳥取県立図書館で開催しているサイエンス･アカデミーですが、毎年１０月と１１月は「サイエンス・アカデミー in Yonago」と題して、会場を米子市立図書館に移しています。

本年度は、「あなたの知らない、きのこの世界」を主題に中桐昭教授をはじめとする農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センターの教員方から､きのこの探索から収集、保存そして健康効果など、秋にふさわしいテーマでの講演があり、全４回で延べ３１０名の方にご参加いただきました。

6. 風紋祭での模擬店出店、及び連携各町からの食材提供

【10 月 11 日（日）　開催：鳥取大学鳥取キャンパス】

鳥取大学と連携している５町（日南町・南部町・大山町・智頭町・琴浦町）の特産品をＰＲするため、昨年に引き続き大学と連携５町が協働し、風紋祭に模擬店を出店しました。日南町の米や南部町の漬物、いのしし肉、大山町の鶏肉、智頭町の油揚げ、琴浦町のあごだし・あごちくわなど地元の食材をふんだんに使用した「炊き込みご飯」は、昨年と同様に大変好評で、地域の特産品を来場者に知っていただく良い機会となりました。また、南部町、大山町、智頭町、琴浦町、鳥取県水産試験場では、料理サークル等の学生が出展する模擬店にも食材提供を行い、併せて町（団体）をＰＲしていただきました。提供食材で作られたハタハタの唐揚げやプリン等は来場者から非常に好評を得ていました。

7. 平成 27 年度廃棄物・資源循環研究会公開シンポジウム

【10 月 16 日（金）　開催：鳥取大学広報センタースペースＣほか】

とっとりネットワークシステム（TNS）登録研究会の「廃棄物・資源循環研究会」と鳥取大学の主催による「資源の循環利用を考えるシンポジウム」が開催され、８０名を超える参加がありました。

野生鳥獣の資源的利用に関する話題を中心とした基調講演に日本大学生物資源科学部動物資源科学科　小林信一教授を迎え、県内の研究者や企業によるビジネスプランの紹介や研究発表、ポスター発表が行われました。

本学からは、工学研究科　星川淑子教授が「微細藻類を活用し資源循環技術の開発に向けて」、農学部　保坂善真教授が「イカ由来コンドロイチン硫酸を用いた骨組織形成の制御」、地域学部　澤田廉路特命准教授が「山のやっかいものを地域の宝に」、産学・地域連携推進機構　清水克彦准教授が「鳥取県産鹿角の有効利用に関する研究」と題して研究発表を行いました。

8. 鳥取大学地域貢献支援事業成果報告会（倉吉会場）

【10 月 20 日（火）　開催：倉吉未来中心セミナールーム１】

本学では地域の課題やニーズに対し、自治体等と連携して解決を目指す地域貢献支援事業に取り組んでおり、中部地区における平成２６年度事業の成果報告会を開催しました。

この報告会は研究成果を広く地域のみなさまに知っていただき、活用していただくことを目的に開催したもので、工学研究科　浅井秀子准教授をはじめ事業に取り組んだ教員３名からその成果を発表しました。事業に協力いただいた連携自治体の職員の方からもご報告いただき、約３０名の参加者は熱心に発表に耳を傾けておられました。

9. 第 2 回放置財研究会　【10 月 21 日（水）　開催：鳥取県庁第６会議室】

１０月２１日（水）に耕作放棄地、荒廃する人工林、空き家といった放置される不動産に係る問題の包括的理解と解決策の提言を目指して設立された放置財研究会の第２回会合が鳥取県庁で開催されました。

農学部　片野洋平助教ほか本学職員、県庁及び日南町役場職員の関係者２１名が参加した今回は、日南町の農地、空き家、山林、税の担当者が現状を報告し、人口流出が著しい中山間地域における財産管理の現状について理解を深めました。

山林と農地については、大部分が経営能力のある団体への集積により対応できているが、経済性の低い土地については放置される傾向にあり、これらを今後どうしていくかが課題となりました。また、固定資産税については、約９９％と高い徴収率で推移しているものの、相続放棄などによって税徴収に係るコストが増加していることが分かりました。

10. 平成 27 年度第 2 回日野川源流の会幹事会　【10 月 22 日（木）　開催：鳥取県西部総合事務所】

１０月２２日（木）に第２回幹事会が開催されました。平成２７年４～１０月の活動について、水産体験学習交流会（境港市）、日野川の自然環境と希少生物を守る体験学習会、日野川源流探訪 in 船通山（日南町）、地域を守る活動ボランティア＆わくわく自然体験 in 鏡ヶ成（江府町）など現場の写真や参加者アンケート結果を交えて報告がありました。さらに、今後の行事予定については前回幹事会での意見を参考に確認を行いました。

平成２８年の事業計画の新たな基本方針や各活動や事業の素案に関しては、これまでの実績を参考に検討を重ねました。特に子供や高齢者の参加、会員の増加、活動の広報、活動助成金などについて集中した議論となりました。

11. 南部町公民館ひょうしぎ学級の鳥取大学訪問

【10 月 23 日（金）　開催：鳥取大学フィールドサイエンスセンターほか】

１０月２３日（金）に南部町公民館ひょうしぎ学級の女性２１名が、鳥取大学を訪問されました。ひょうしぎ学級は、家庭生活・人権・健康づくりなど身近な暮らしの課題について学習する取り組みで、普段町内ではできない学習や体験をする場として来学されました。

今回の研修では社会貢献課　原田剛課長から大学の概要説明を受けたのち、フィールドサイエンスセンターを訪問し、技術部　岩下博通技術専門職員に解説を受けながら、果樹や野菜の栽培や実習の様子を見学されました。参加者は「大学では、こんな実習もされているのですね」と、興味深く見学され、鳥取大学について新たな魅力や一面を発見しておられました。

12. 西日本水産系研究者等ネットワーク境港フォーラム　～水産による地方創生を考える～

【10 月 23 日（金）　開催：夢みなとタワーシアター】

鳥取大学・愛媛大学の主催で「西日本水産系研究者等ネットワーク 境港フォーラム ～水産による地方創生を考える～」が開催されました。このネットワークは、我が国の水産の未来に向けたイノベーションを進めるための、西日本を中心とした研究者等のネットワークで、鹿児島大、長崎大、宮崎大ほかの大学、水産総合研究センター、科学技術振興機構等が参画しています。

基調講演「新しい時代の水産業を目指して一地域創生に向けた「実学」としての水産学の挑戦」（岩手大　石村学志准教授）、各地からの報告、本学の増田紳哉産官学コーディネーターがモデレーターを務めたパネルディスカッションののち、代表の山内教授（愛媛大）がフォーラム宣言をまとめ、我が国の水産イノベーションの創出に資する活動を活性化することとしました。当日は、１５０名ほどの参加者がありました。

13. 鳥取大学振興協力会第 2 回役員会及び交流会

【10 月 26 日（月）　開催：ホテルモナーク鳥取鳳翔の間】

鳥取大学振興協力会では平成２７年度第２回となる役員会及び会員交流会を開催しました。役員会では、昨年度から継続して取り組む研究室訪問等の活動と、「地域就業論」「ものづくり実践プロジェクト」「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」といった学生と産業界を結びつけるための活動について報告を行った後、意見交換を行いました。

続いて行われた交流会では、会員企業である㈱明治製作所の羽鳥吉彦技術開発部長と工学研究科の櫛田大輔助教から、ハンマ鍛造作業者の育成を目的とした訓練用シミュレータ開発に関して講演を行いました。懇親会では学生からのプレゼン発表も行い、７２名の参加者は会員同士や研究者・学生との交流を深めました。

14. 竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連絡協議会見学会

【10月30日（金）　開催：鳥取県林業試験場ほか】

TNSに加入している「竹林整備と竹材利用に関する鳥取県連絡協議会」が主催する学習会と見学会が１０月３０日（金）開催されました。本見学会は竹林整備と竹林利用は、まず現場を見ることが重要という考えのもと実施されたもので、鳥取県林業試験場において森田浩也研究員から樹脂と竹による燃料用ペレットの作成、竹を利用した林道切取法面の草押えについて説明を受けた後、八頭町大江地区の林道工事現場に移動し竹繊維吹付緑化

工法（R100ソイル工法）による法面工事の施工実験場の見学を行いました。見学会には、会員企業、法人、諸団体、教育研究機関、行政から約５０名の参加がありました。

15. とっとり産業技術フェアへの出展　【11 月 1 日（日）　開催：鳥取県民体育館サブアリーナ】

県民体育館サブアリーナを会場に「とっとり産業技術フェア」が開催されました。県内企業・研究機関の技術や優れた製品等を展示・実演することで、技術への興味と県内企業の魅力を持ってもらうことを目的とするもので、昨年度までは「とっとり産業フェスティバル」として鳥取大学と鳥取県を中心とした実行委員会で実施されていましたが、今年度からは鳥取県の主催となりました。

本学からは工学研究科から情報エレクトロニクス専攻の清水忠昭准教授、櫛田大輔助教、機械宇宙工学専攻の原豊准教授、工学部ものづくり教育実践センターの三浦政司助教が、それぞれの研究について特色のある出展をされました。フェア全体では約 2,100 名の来場があり、本学関連のブースにも多くの方に訪れていただきました。

16. ものづくり指導者養成講座（鳥取、米子）【（鳥取）11 月 14 日（土）、15 日（日）、21 日（土）～　開催：鳥取大学地域学部教育共通実習室ほか、（米子）11 月 23 日（月）、11 月 28 日（土）、11 月 29 日（日）　開催：米子市児童文化センター】

鳥取大学をはじめ自治体や地元企業等が連携して運営するものづくり道場では、地域で子ども達にものづくりや科学・技術を教える指導者になっていただくための指導者養成講座を、毎年県内３か所（東・中・西部）で開催しています。今回の講座では、東部２５名、中部３３名、西部２７名の方が受講されました。受講者は今後、実際に子ども達に教える実地演習を経て、指導者養成講座修了生となります。指導者養成講座の修了生は、派遣講座・各イベントへのブース出展など各地域で色々なものづくり教室にて活躍しています。

17. 第 2 回とっとり防災・危機管理研究会

【11 月 18 日（水）　開催：鳥取大学 地域安全工学センター、及び鳥取県庁】

平成２７年度第２回鳥取防災・危機管理研究会を工学部附属地域安全工学センターを主会場に鳥取県庁、産学・地域連携推進機構米子地区部門（医学部）の２か所をテレビ会議で繋ぎ、鳥取大学研究者・県内各防災担当職員等３２名の出席のもと開催しました。この研究会では自然災害などを専門とする研究者が横断的に連携し、その成果を広く地域に発信しています。

はじめにセコム山陰の中谷典正様よりＢＣＰ策定後の演習について話題提供があり、具体的な演習の進め方や計画の改善作業についてお話しをしていただきました。この他に鳥取県から県内の地震・津波被害想定見直し事業の中間報告などの事業報告があり、災害に対する認識を再確認しました。

18. 第 2 回鳥取大学・日南町ワーキンググループ会議

【12 月 3 日（木）　開催：鳥取大学医学部アレスコ棟第 1 会議室】

１２月３日（木）、鳥取大学医学部を会場に今年度第２回目となる「鳥取大学・日南町連携事業ワーキング会議」が開催されました。農学部　日置義之教授が座長を務め、大学教員や町職員のほか関係者ら３９名が出席しました。

連携事業の進捗状況の確認（中間報告）については、概ね予定通り進んでいることが確認されました。また、次年度の連携事業については、日南町から「若松鉱山（産業遺産）の保存・活用プロジェクト」や「農林業体験」インターンシップ、「若者発のオシャレ農業を！農業のイメージアップ戦略プロジェクト」インターンシップなどについて協力の要請がありました。第３回目のワーキング会議は2月下旬に行われる予定です。

19. 鳥取県地域振興部との意見交換会　【12 月 11 日（金）　開催：鳥取大学広報センタースペースＦ】

鳥取県地域振興部と鳥取大学による意見交換会を、鳥取大学広報センタースペースＦにて開催しました。本会は両者のより一層の連携強化を図ることを目的に毎年開催しているもので、県地域振興部からは岡崎隆司部長をはじめ８名が、本学からは中嶋理事、法橋理事をはじめ１７名が出席しました。

議題については県地域振興部からは「『BeSeTo 演劇祭 2016』への積極的参加」、「『ファブラボとっとり』の２８年度以降の継続運営」など、本学からは「COC 事業及び COC＋事業の取り組み」、「『とっとりイノベーションファシリティネットワーク』事業の今後の運営」などが出され、活発な意見交換が行われました。

20. 鳥取大学振興協力会西部地区懇談会及び交流会

【12 月 14 日（月）　開催：国際ファミリープラザ】

鳥取大学振興協力会では産官学交流の一環として各地区会員との懇談会を行っており、このたび西部地区の会員２０名の参加のもと、大学に対する提案・要望について意見交換を行いました。会員からは企業と大学の距離を縮めて欲しいといった意見が寄せられ、会員企業を積極的に訪問してニーズに対応していくことなど協議を行いました。

続いて行った講演会では、ＳＢエナジー株式会社　青木智久部長より太陽光をはじめとする自然エネルギーの現状・将来的な展望について、工学研究科　海老沼孝郎寄付講座教授よりメタンハイドレートの調査・研究状況について、同じく原豊准教授より小型風力発電の低コスト化を目指した研究についての発表があり、参加した５２名が耳を傾けました。

21. サイエンスアカデミー「多文化主義とはなにか」開講

【12 月 12 日（土）～　開催：鳥取県立図書館大研修室】

12 月からの「サイエンス・アカデミー」は会場を鳥取県立図書館に戻し、「多文化主義とはなにか」を主題に全４回のシリーズが始まりました。１２月１２日に第１回目が開催され、地域学部　ケイツ アレキサンダー キッペン教授が登壇し、「多文化時代に生きるとは？－多文化世界の課題－」と題して、世界各国を周ったケイツ教授が様々な多文化都市のケーススタディや日本における多文化社会などを紹介しました。米子会場等にもライブ中継を行い、計５４名の方にご参加いただきました。

22. 第 2 回大山町・鳥取大学連携推進連絡会及びインターンシップ報告会

【12 月 18 日（金）　開催：大山町役場】

大山町・鳥取大学連携推進連絡会が大山町役場本庁舎で開催され、森田増範大山町長をはじめ３３名が出席しました。連絡会ではまず本年度の連携事業の進捗状況について報告が行われました。その後、大山町から医療費削減に向けた取り組みや地域自主組織との連携について説明があり、引き続き大学へ支援・協力の依頼がありました。鳥取大学からは学生の地域課題に対する課題解決能力の涵養を目的とするオーダーメイド型インターンシップ等について説明を行ないました。

また、連絡会の前には本年度大山町で実施した２件のインターンシップの報告会が行われ、参加学生による実習内容の報告と町への施策提案がありました。町職員など関係者からは「学生ならではの斬新な意見」といった感想がありました。

③知的財産管理運用に関する事業

1. 知的財産インターンシップ事業

【9 月 7 日（月）～9 月 16 日（水）　開催：鳥取大学及び青山特許事務所（大阪）】

特許の基礎知識に関する講義や特許事務所での実務実習を通じて、知的財産に関する専門的な知識を習得することを目的とした知的財産インターンシ

ップ事業を実施いたしました。今回、教職員および学内外の学生５名が参加いたしました。基礎実習は、下田知財経営綜合事務所の下田一弘弁理士（鳥取大学客員教授）に、また実務実習は大阪の青山特許事務所において冨田憲史弁理士（同客員教授）により行われました。実習生からは、研究論文と特許出願の違い、特許事務所での仕事など学ぶことが多かったとの感想をいただいています。

2. バイオジャパン２０１５【10 月 14 日（水）～16 日（金）　開催：パシフィコ横浜】

バイオ産業に関する国際展示会であるバイオジャパン２０１５に出展いたしました。今回は、農学部の岩崎 崇助教による「新しい細胞膜透過ペプチド『ポリヒスチジン』の発見と応用研究」と題した発表及びブース展示を行いました。会期中展示ブースには多くの企業関係者が訪問され、岩崎先生と熱心に研究成果について意見交換が行われました。プレゼンテーションの聴講者は３１名あり、また約５０社との名刺交換及び面談を行いました。終了後、関心を示す企業との共同開発、技術移転の調整を進めています。

3. 地方発明表彰 受賞【11 月 5 日（木）　開催：セントコア山口】

１１月５日にセントコア山口（山口市）において地方発明表彰式が行われました。本学から医学部附属病院の故 中山 敏先生、陶山淑子助教、藤井香織看護師らによる発明「介護に適した漏れ難い紙おむつ」について、第２７回地方発明表彰 鳥取県発明協会会長賞を受賞いたしました。本発明は、大王製紙株式会社、株式会社ニシウラとともに、これまで介護負担となっていた大人用紙おむつの尿漏れ対策について研究した成果です。本受賞では、科学技術の向上と産業の振興に対して多くの貢献があったこと、また新規商品開発によるイノベーションの創出が高く評価されました。

4. 中国地域さんさんコンソ新技術説明会

【11 月 5 日（木）　開催：ＪＳＴ東京本部別館】

中国地域の大学が連携するさんさんコンソが主催となって、岡山県立大学、広島国際大学、山口大学、広島市立大学、県立広島大学/広島県立総合技術研究所、近畿大学、岡山大学、岡山理科大学、鳥取大学の１０大学/研究所から１０件の新技術を発表する新技術説明会を開催いたしました。本学からは、大学院工学研究科・野上敏材准教授が「レドックスフロー電池におけるイオン液体の可能性」と題して発表しました。来場者数は延べ１４８名で、その内５８名が本学野上准教授の発表を聴講しました。発表終了後、質疑応答が２件あり、また７社の企業と名刺交換、２社の企業と個別技術面談し、今後の連携の可能性について活発な意見交換を行いました。

5. キャンパス・イノベーションセンター（CIC）東京新技術説明会

【11 月 19 日（木）　開催：CIC 東京 】

１２大学が合同で未公開特許を含む、新技術２０件の研究発表を行う「ＣＩＣ東京新技術説明会」を開催いたしました。今回、産学・地域連携推進機構の清水克彦准教授が「生物の機能を利用した温和な条件でのシリカ形成」をテーマに、口頭発表及びポスター展示を行いました。プレゼンテーションの聴講者は約４５名であり、発表後に６社と名刺交換及び意見交換を行いました。

発行日：平成 28 年 1 月 15 日＜第 43 号＞
所在地：〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101
TEL：0857-31-5609　Fax：0857-31-5571
連絡先：鳥取大学産学・地域連携推進機構
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ：http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/
E-mail：ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp